

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ 京都市のインフルエンザの定点あたり報告数は0.74となり、10週連続で減少しました。
- ・ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(80歳代男性)あり、症状は肺炎です。本年の累積報告数は10例となりました。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(70歳代男性)あり、症状は菌血症、発熱、咳、全身倦怠感、肺炎、呼吸苦で、感染地域は国内です。本年の累積報告数は30例となりました。本疾患の予防にはワクチンの接種が有効です。

京都市では、「高齢者肺炎球菌ワクチン」を定期予防接種として実施しています。詳しい情報については、下記URLを御参照ください。

○高齢者肺炎球菌ワクチンの定期の予防接種について(健康安全課ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000171591.html>

- ・ 梅毒の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹です。感染地域は国内で、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は28例となりました。重症化や感染の拡大、まん延を防ぐためには早期発見、早期治療が大切です。不安を感じたら検査や受診をしましょう。

京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。

○京都市情報館「京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変更しました。)」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>

- ・ 百日咳の報告が2例(40歳代女性、10歳未満男性)(第11週追加報告分及び第14週追加報告分)あり、ともに感染地域は国内、感染経路は家族内感染です。本年の累積報告数は5例となりました。

◆ 今週のトピックス: <海外渡航先での感染症>

ゴールデンウィークには海外で過ごす方が多くなり、感染症にかからないために、日本で発生していない感染症に対する知識も必要になります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 5例(肺結核 2例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者なし)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 94例(肺結核 37例, その他結核 22例, 潜在性結核感染者 35例)うち喀痰塗抹陽性 18例】
- ・ 五類: カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 10例】
- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 30例】
- ・ 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 28例】
- ・ 五類: 百日咳 2例【1月以降の累積報告数 5例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

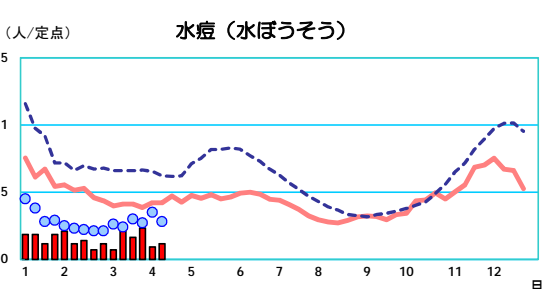
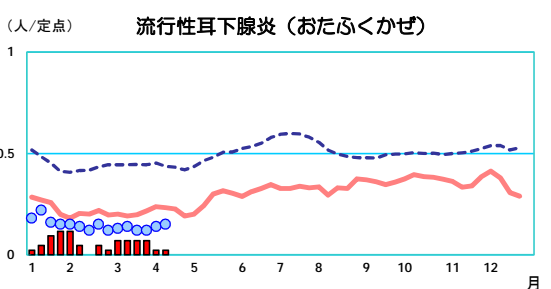
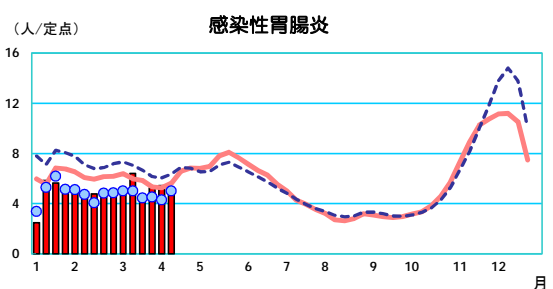
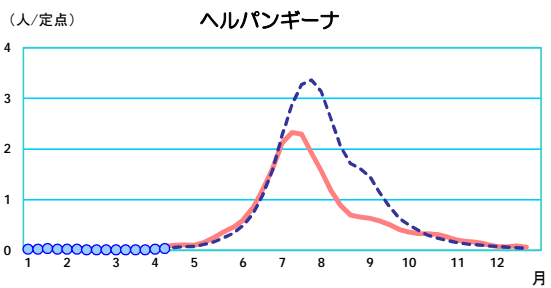
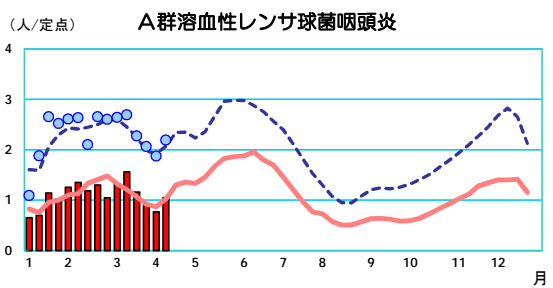
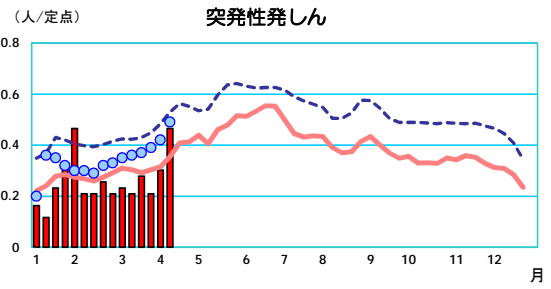
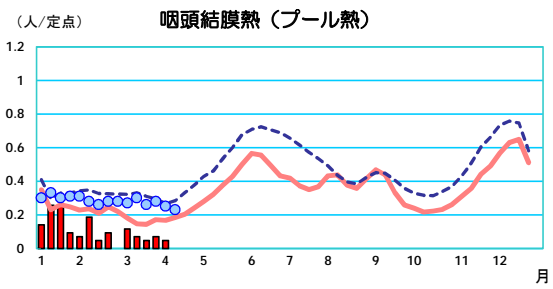
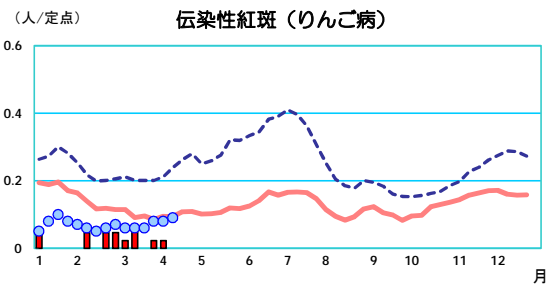
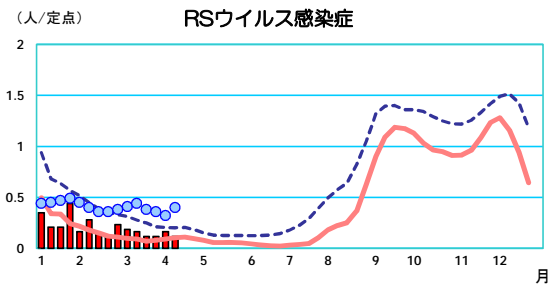
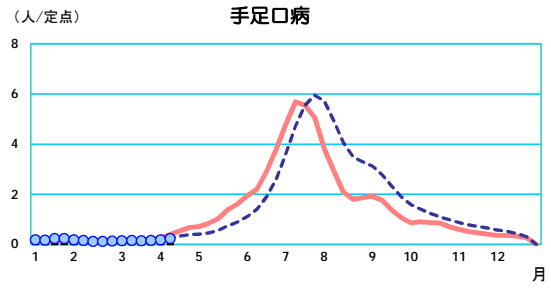
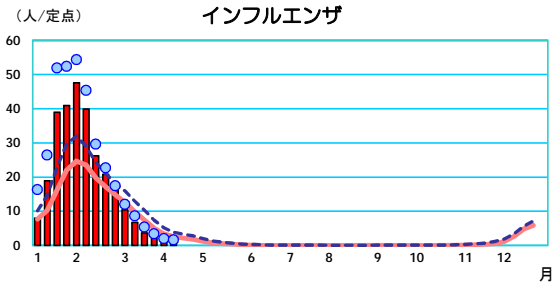
定点	感染症名	定点あたり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.74	51
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.05	217
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.05	45
	③ 突発性発しん	0.47	20
	④ RSウイルス感染症	0.12	5
	④ 水痘	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <海外渡航先での感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、平成30年4月19日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第15週(4月9日～4月15日)トピックス: <海外渡航先での感染症>

ゴールデンウィークには海外で過ごす方が多くなり、感染症にかからないために、日本で発生していない感染症に対する知識も必要になります。海外で注意しなければいけない感染症については、厚生労働省検疫所のホームページFORTH(フォース)に最新の情報が提供されています(<http://www.forth.go.jp/index.html>)。今回その中から、中東で問題のポリオ(急性灰白髄炎)と現在日本でも問題となっている麻しん(はしか)について取り上げました。

ポリオは、主に5歳未満の小児がかかる疾患で、感染者の200人のうち1人に不可逆的な麻痺が起り、麻痺患者の5～10%が呼吸筋の機能不全を起こし死に至ります。

世界保健機関(WHO)を中心とした全世界的なワクチン接種の取組が奏功し、1988年には推定35万人いた患者報告数が2016年には37人になりました。

しかし、4月に入り立て続けにアフガニスタンとパキスタンで患者が発生し、WHOは「国際的に懸念される公衆上の緊急事態」を宣言しました。1人でも小児が感染すると、全ての国の小児に感染の危険が生まれます。そこで、外務省は、ポリオ発生国であるパキスタン、アフガニスタン、シリア、コンゴ民主共和国及びナイジェリアに渡航される方に追加の予防接種を推奨しています。

麻しんは、空気感染・飛沫感染・接触感染で次々に伝播する、重篤となりやすいウイルス性の疾患で、感染者の5人に1人は中耳炎、肺炎、脳炎などの合併症を起こします。

世界の麻しんの流行状況を見ると、南東アジア地域が最も報告数が多く、大きな流行が続いています。他の地域では、2016年に西太平洋地域(モンゴル)とアフリカ地域(ナイジェリア)で、2017年にヨーロッパ地域(ルーマニア、イタリア及びウクライナ)で大流行があり、報告数が増加しています(図1)。

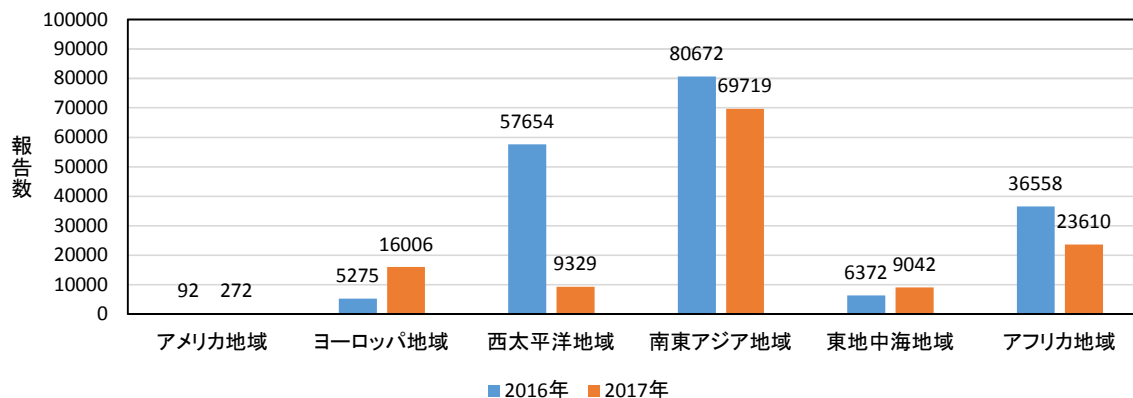
一方、日本近辺の西太平洋地域の麻しん発生状況の2013年12月から2018年2月の推移(図2)を見ると、報告数の多かった国々でのワクチンキャンペーン等により年々減少しています。しかしながら、毎年3月～5月に流行のピークが見られ、ゴールデンウィークの時期には特に注意が必要です。

日本は、WHOにより2016年3月に麻しん排除状態にあることが認定されましたが、それ以降も海外からの麻しんウイルスの持ち込みが継続して起きています。実際、今年3月下旬の沖縄で、台湾からの観光客に始まる広範囲の流行が発生しました。麻しんは、生涯2回のワクチン接種で免疫力が得られます。定期接種対象年齢の方はもちろんですが、海外への渡航に際しては、ワクチン接種歴等を確認の上、必要に応じて渡航前にワクチン接種を行うことを推奨します。

その他一般的な旅行中の注意すべき点として、FORTHでは次の注意喚起を行っています。

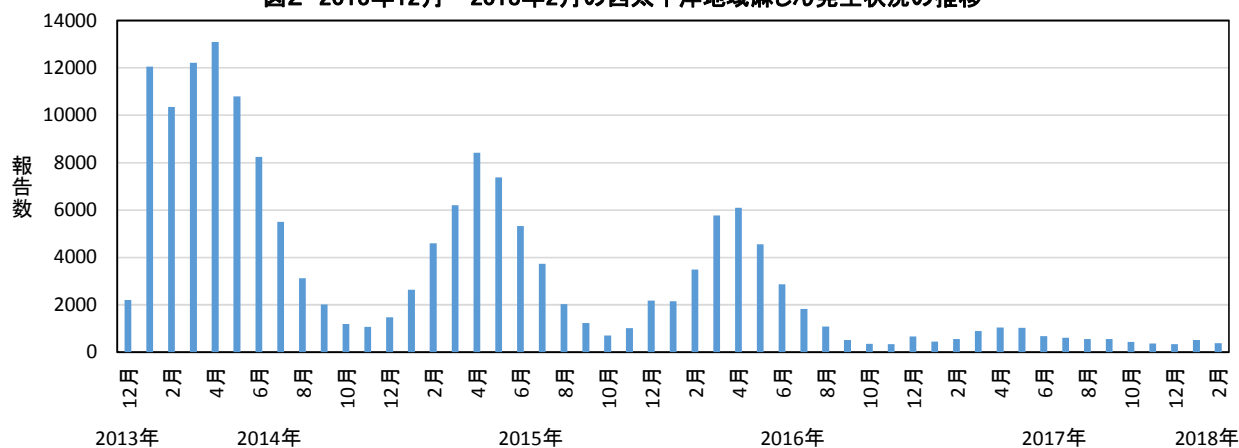
- ◇生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
- ◇食事は十分に火の通った信頼できるものを食べましょう。
- ◇蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、必要があれば虫よけ剤を使うなどしましょう。
- ◇動物は狂犬病、MERSや鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあるので、むやみに触らないようにしましょう。
- ◇薬物やゆきずりの性交渉で感染し、一生の後悔をすることのない行動をとりましょう。

図1 2016年、2017年の海外6地域の麻しん報告数



※IASR Vol. 39, No.4 (No. 458) April 2018 より引用

図2 2013年12月～2018年2月の西太平洋地域麻しん発生状況の推移



※WHOホームページのMeasles-Rubella_Bulletin_2015_Vol09_No-07～Measles-Rubella_Bulletin_2018_Vol12_No-03より引用

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第15週

疾病,行政区別報告数

平成30年4月9日～平成30年4月15日

データ入手日:平成30年4月19日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																			
北	3	3	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	1						
上京	10	-	-	6	5	-	-	-	1	-	-	-	-						
左京	10	-	-	3	70	-	-	-	2	-	1	-	-						
中京	3	-	-	6	11	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	5	1	-	1	10	-	-	-	-	-	-								
山科	5	-	-	5	-	-	-	-	2	-	-	-	-						
下京	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-								
南	7	-	-	1	9	1	-	-	2	-	-								
右京	1	1	-	7	17	-	-	-	4	-	-	-	3						
伏見	4	-	-	10	52	3	-	-	2	1	-	-	-						
西京	1	-	-	6	39	-	-	-	5	-	-	-	-						
京都市計	51	5	-	45	217	5	1	-	20	1	1	-	4	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																			
北	0.43	0.75	-	-	1.00	0.25	-	-	-	-	-	-	1.00						
上京	2.00	-	-	2.00	1.67	-	-	-	0.33	-	-	-	-						
左京	1.43	-	-	0.75	17.50	-	-	-	0.50	-	0.25	-	-						
中京	0.60	-	-	2.00	3.67	-	0.33	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	1.67	0.50	-	0.50	5.00	-	-	-	-	-	-								
山科	0.71	-	-	1.00	-	-	-	-	0.40	-	-	-	-						
下京	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-								
南	1.40	-	-	0.33	3.00	0.33	-	-	0.67	-	-								
右京	0.13	0.20	-	1.40	3.40	-	-	-	0.80	-	-	-	3.00						
伏見	0.36	-	-	1.43	7.43	0.43	-	-	0.29	0.14	-	-	-						
西京	0.13	-	-	1.20	7.80	-	-	-	1.00	-	-	-	-						
京都市計	0.74	0.12	-	1.05	5.05	0.12	0.02	-	0.47	0.02	0.02	-	0.40	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第15週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年4月9日～平成30年4月15日

データ入手日:平成30年4月19日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	51	1	2	3	5	2	2	2	-	-	-	-	6	5	2	3	3	4	4	4	3
RSウイルス感染症	年齢3	5	-	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		45	-	-	2	5	6	4	6	4	7	5	1	1	-	4	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		217	1	8	33	31	19	17	15	9	7	10	6	20	7	34	-	-	-	-	-	-
水痘		5	-	-	-	2	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		20	1	5	13	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.74	0.01	0.03	0.04	0.07	0.03	0.03	0.03	-	-	-	-	0.09	0.07	0.03	0.04	0.04	0.06	0.06	0.06	0.04
RSウイルス感染症	年齢3	0.12	-	0.05	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.05	-	-	0.05	0.12	0.14	0.09	0.14	0.09	0.16	0.12	0.02	0.02	-	0.09	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		5.05	0.02	0.19	0.77	0.72	0.44	0.40	0.35	0.21	0.16	0.23	0.14	0.47	0.16	0.79	-	-	-	-	-	-
水痘		0.12	-	-	-	0.05	-	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.47	0.02	0.12	0.30	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	0.10	0.20	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第15週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年4月19日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	716	469	253	160	66	51
RSウイルス感染症	8	7	5	5	7	5
咽頭結膜熱	5	3	2	3	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	67	50	39	33	45
感染性胃腸炎	207	275	195	225	234	217
水痘	3	10	7	10	4	5
手足口病	1	3	4	1	3	1
伝染性紅斑	1	3	-	1	1	-
突発性発しん	10	9	12	9	13	20
ヘルパンギーナ	-	-	-	2	1	1
流行性耳下腺炎	3	3	3	3	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	1	3	3	2	4
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	1,015	850	534	461	367	350

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	10.38	6.80	3.67	2.32	0.96	0.74
RSウイルス感染症	0.19	0.16	0.12	0.12	0.16	0.12
咽頭結膜熱	0.12	0.07	0.05	0.07	0.05	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.33	1.56	1.16	0.91	0.77	1.05
感染性胃腸炎	4.81	6.40	4.53	5.23	5.44	5.05
水痘	0.07	0.23	0.16	0.23	0.09	0.12
手足口病	0.02	0.07	0.09	0.02	0.07	0.02
伝染性紅斑	0.02	0.07	-	0.02	0.02	-
突発性発しん	0.23	0.21	0.28	0.21	0.30	0.47
ヘルパンギーナ	-	-	-	0.05	0.02	0.02
流行性耳下腺炎	0.07	0.07	0.07	0.07	0.02	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.40	0.10	0.30	0.30	0.20	0.40
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	17.64	15.73	10.43	9.55	8.11	8.00

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。